

AI時代、日本発「Longevity 2.0」が始動

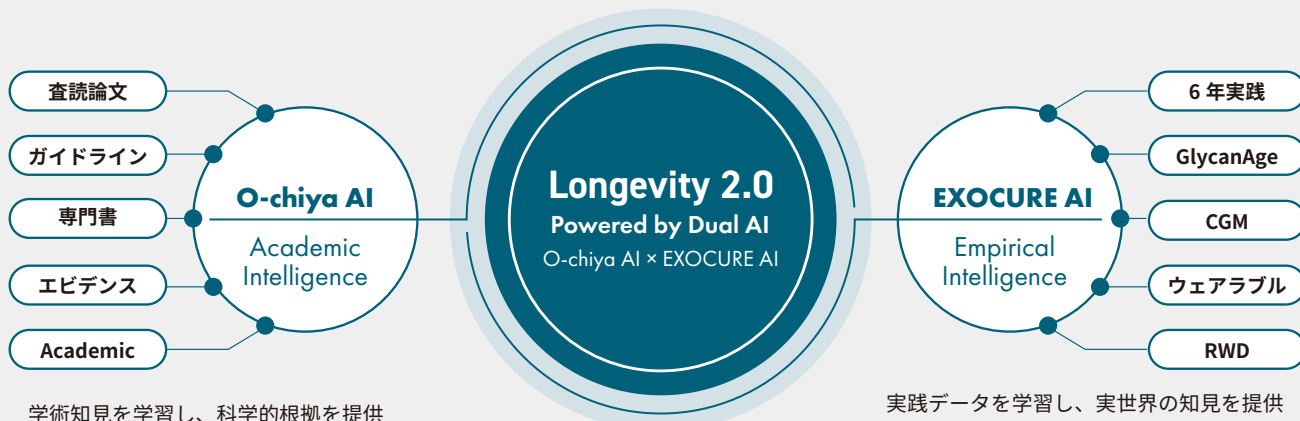
— 健康管理から、健康寿命を育てる時代へ —

ExoEarth 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役CEO：西平 隆）は、2026年7月10日、AIを活用した新たな健康寿命マネジメントモデル『Longevity 2.0』の本格始動を発表しました。

『Longevity 2.0』は、EVs・糖鎖年齢（GlycanAge）・Real World Data（RWD）を統合し、学術知見と実践データを融合することで、一人ひとりに最適化された健康寿命マネジメントを実現します。

本リリースでは、その全体構想と科学的背景、実践成果、そして2035年に向けた展望をお伝えします。

『Longevity 2.0』を支える Dual AI



本リリースのポイント

Point 1 AI時代の健康寿命マネジメント「Longevity 2.0」始動

AI・EVs・糖鎖年齢・RWDを融合した新たな健康マネジメントモデルを紹介します。

Point 2 6年以上の実践が生み出した Real World Data

2018年から蓄積してきた実践データを基盤とした健康マネジメントをご紹介します。

Point 3 GlycanAge 2026 World Champion 受賞

6年以上の実践成果が科学的評価プログラムで認められた経緯をご紹介します。

Point 4 健康管理から健康寿命マネジメントへ

「点」の評価から「線」の健康マネジメントへの新たな考え方を提案します。

Point 5 6-Step Program Structure

健康寿命を育てるための継続的な実践プロセスをご紹介します。

Point 6 2035年世界100万人の健康寿命マネジメントへ

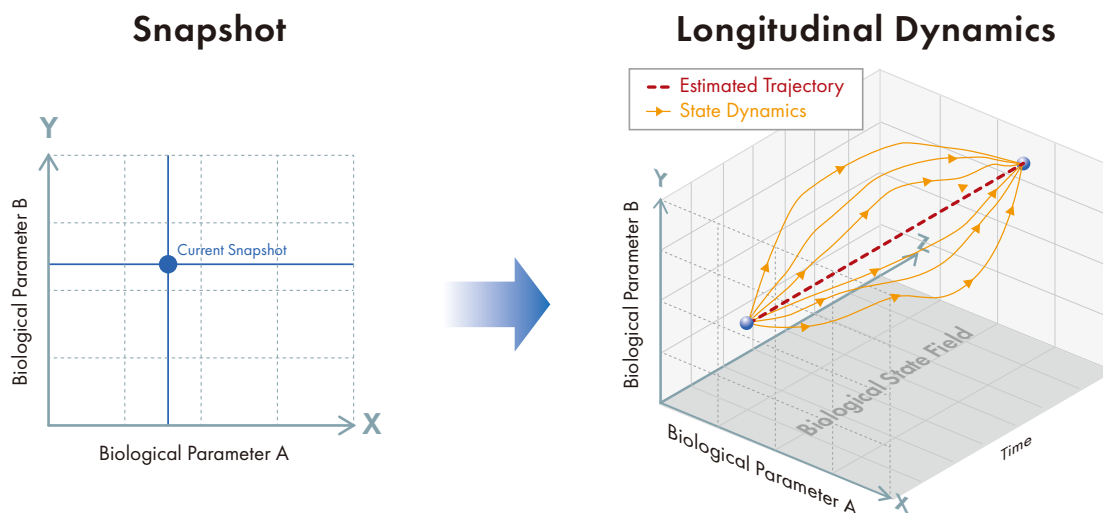
日本発の Longevity2.0 が目指す未来をご紹介します。

健康の OS が変わる。 ～ 健康の考え方そのものが変わる。～

AI が社会へ実装される時代。

私たちは今、「病気を見つける健康管理」から、「健康寿命を育てる健康マネジメント」への大きな転換点を迎えています。

ExoEarth 株式会社は、EVs（細胞外小胞）、GlycanAge、AI、Real World Data（RWD）を統合した新しい健康マネジメント「Longevity 2.0」を本格始動します。



従来の健康管理は、健康診断や検査による「点」の評価が中心でした。
Longevity 2.0 では、継続的なデータ蓄積と AI 解析により、健康状態を「線」として捉え、
未来に向けた健康寿命マネジメントを実現します。

■ なぜ今、「Longevity 2.0」なのか。

ExoEarth は 2018 年以來、EVs（細胞外小胞）、GlycanAge、CGM、睡眠、運動、栄養など、多様な健康データを継続的に蓄積し、Real World Data（RWD）として解析を続けてきました。

私たちが目指してきたのは、健康状態を評価することではありません。

一人ひとりの健康状態の変化を科学的に捉え、その人に合わせた健康マネジメントを継続的に実践し、健康寿命を育てる仕組みを構築することです。

その6年以上にわたる継続実践を象徴する成果の一つとして、当社代表取締役 CEO 西平隆は、2026 年 6 月、クロアチアで開催された GlycanAge 国際イベントにおいて、「**GlycanAge 2026 World Champion**」に選出されました。



GlycanAge 2026 World Champion 受賞

私たちは、この受賞を一人の成果としてではなく、

6年以上にわたり継続してきた健康マネジメントの実践が、科学的評価によって示された一つの Evidence（実証例）と受け止めています。

だからこそ今、その知見を社会へ還元するため、「Longevity 2.0」を本格始動します。



では、「Longevity 2.0」はどのように健康寿命を育てるのでしょうか。
次ページでは、その中核となる「**6-Step Program Structure**」をご紹介します。

Longevity2.0 はどのように健康寿命を育てるのか。

「Longevity 2.0」は、健康を診断する仕組みではありません。一人ひとりの状態を継続的に把握し、AIが学習し、最適な介入を繰り返しながら、健康寿命を育てていく新しい健康マネジメントです。

6-Step Program Structure



この6つのステップを継続的に循環させることで、一人ひとりに合わせた健康マネジメントを実現していきます。

STEP 01	現状把握 Assessment	身体機能や生活状態など多面的な生体情報から現在の状態を把握します。	EVs / GlycanAge / CGM / ウェアラブル
STEP 02	個別設計 Personalized Design	蓄積されたデータと医学的知見をもとに、個体差に応じた介入設計を行います。	O-chiya AI (学術知)
STEP 03	実践介入 Intervention	医師判断に基づく臨床と、食を通じたロングエビティ設計を統合する構想です。	EXOCURE (複数投与経路)
STEP 04	継続観測 Follow-up	介入後の変化を継続的に観測し、生体反応を時間軸で記録します。	CGM / ウェアラブル / RWD
STEP 05	データ学習 RWD / AI Learning	蓄積された RWD をもとに、AIが変化パターンや個体差を学習します。	EXOCURE AI (実データ知)
STEP 06	最適化 Optimization	観測結果と学習結果を次の介入設計へ反映し、継続的な最適化を行います。	O-chiya AI × EXOCURE AI

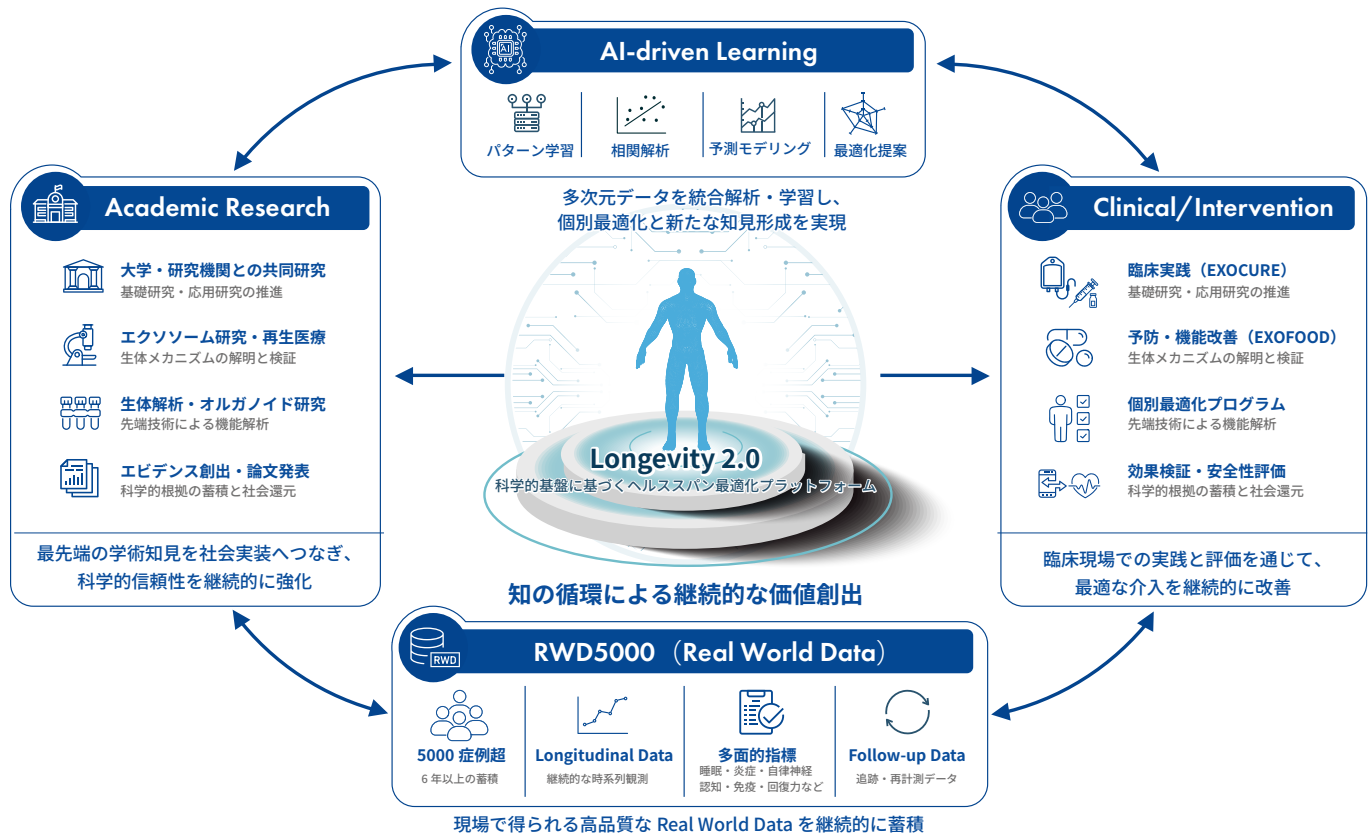
この健康マネジメントを支えているのが、2018年から蓄積してきた **Real World Data** と、それを学習する2つの **Dual AI** です。

6年以上の実践が支える Longevity 2.0 の科学的基盤

Longevity 2.0 は、一つの AI や一つの検査技術によって実現されるものではありません。

大学・研究機関の学術知見、6年以上にわたり蓄積した Real World Data、AI による解析・学習、そして臨床・実践による継続的な検証を循環させることで、一人ひとりに最適化された健康寿命マネジメントを実現します。

研究・データ・AI・臨床が連携し、継続的に知を循環させることで、健康寿命の最適化を実現します。



O-chiya AI Academic Intelligence (学術知)

世界中の査読付き論文、国際ガイドライン、最新研究成果を継続的に学習し、一人ひとりに最適な健康マネジメントを設計するための学術的根拠を提供します。

EXOCURE AI Empirical Intelligence (実データ知)

2018年以來 ExoEarth が蓄積してきた EV、GlycanAge、CGM、ウェアラブルデータなどの Real World Data を継続的に学習し、健康状態の変化や介入効果を解析・予測します。

O-chiya AI と EXOCURE AI は相互に学習しながら、科学的知見と実世界データを融合し、継続的な健康寿命マネジメントを実現します。

取り組みの成果は、科学的評価プログラムでも認められました。

その一例が、「GlycanAge 2026 World Champion」という科学的評価です。次ページでは、その背景となる糖鎖科学 (Glycan Science) をご紹介します。

代表取締役 CEO 西平 隆 コメント



**GlycanAge 2026
World Champion**

6年以上の継続実践
(2018-2026)

本取り組みを支えてくださった研究者、医療従事者、パートナーの皆様にご心より感謝申し上げます。

私は世界チャンピオンを目指してきたわけではありません。目指してきたのは、科学的根拠に基づき、自ら実践し、その経験を未来の健康づくりへ還元することです。

今回の受賞は、その歩みが評価された一つの節目です。しかし、本当に価値があるのは受賞そのものではありません。この知見を、誰もが活用できる健康マネジメントへ発展させること。

それが、ExoEarth が Longevity 2.0 に込めた想いです。

— Glycan Science（糖鎖科学）が示す可能性 —

糖鎖（Glycan）は、免疫応答や炎症状態と密接に関係していることが明らかになってきています。近年では、加齢に伴う慢性炎症（Inflammaging）との関連が注目されており、糖鎖変化は健康状態を反映する重要な生体情報として研究が進められています。

さらに、糖鎖は生活習慣や栄養、運動、睡眠などの影響によって変化する動的な生命情報であることから、健康状態の変化を継続的に捉える新たなバイオマーカーとして期待されています。

オミクス層	情報の性質	変化のタイミング	主な意味
DNA（ゲノミクス）	遺伝情報（固定）	原則一生不変	潜在リスク・体質
蛋白質（プロテオミクス）	機能情報（動的）	数時間～数日	現在の機能状態
代謝物（メタボロミクス）	代謝情報（流動）	数分～数時間	代謝フロー
糖鎖（グライコミクス）	生体履歴情報（蓄積）	数週間～数年	免疫・炎症・老化

— 科学的評価 GlycanAge について —

GlycanAge Ltd.（英国・クロアチア）は、免疫グロブリン（IgG）の糖鎖解析による生物学的年齢（Biological Age）評価を提供する Longevity Diagnostics 企業です。

現在、世界 64 か国でサービスを展開し、累計 30 万人以上の糖鎖プロファイルを解析しています。

Human Glycome Project をはじめ、Mayo Clinic、Harvard Medical School、King's College London、Johns Hopkins University など世界有数の研究・医療機関と連携し、糖鎖解析技術の発展と社会実装を推進しています。

今回の「GlycanAge 2026 World Champion」は、このような糖鎖科学に基づく評価体系の中で実施された科学的評価です。

※本評価は、ExoEarth と GlycanAge 社との提携・共同研究を示すものではありません。

GlycanAge Ltd.（英国・クロアチア）

創業は 2020 年（Genos Ltd. の研究部門・2007 年～）

CEO: Nikolina Lauc / CSO: Prof. Gordan Lauc

コーポレートサイト URL

<https://glycanage.com/>

謝辞 — サイエンスアドバイザー 落谷 孝広 特任教授への感謝

ExoEarth の6年以上にわたる実践知と「Longevity 2.0」の構想実現にあたり、2018年以來、当社サイエンスアドバイザーとしてご支援いただいております東京医科大学 医学総合研究所 未来医療研究センター 分子細胞治療研究部門 特任教授 落谷 孝広先生に、心より感謝申し上げます。

落谷先生はエクソソーム研究の世界的第一人者であり、日本細胞外小胞学会（JSEV）理事長を務められるとともに、ExpertScape およびScholarGPS によるエクソソーム分野世界第1位（2024年）、Web of Science 「Highly Cited Researchers」に6年連続で選出されています。

先生からご監修いただく学術知見は、O-chiya AI（Academic Intelligence）の基盤となり、「Longevity 2.0」の科学的基盤を支えています。

この知見を社会へ還元するため、Longevity2.0 を始動しました。

私たちの約束

私たち ExoEarth は、寿命を延ばすことだけを目指しているではありません。
一人ひとりが、健やかに学び、働き、挑戦し続けられる社会を実現すること。
そのために、健康寿命という新しい社会インフラ「Longevity 2.0」を
日本から世界へ届けてまいります。

会社概要

会社名	ExoEarth 株式会社（ExoEarth Corporation）
所在地	〒105-5117 東京都港区浜松町2丁目4-1 世界貿易センタービルディング南館17F
設立	2014年
代表者	代表取締役CEO 西平 隆
事業内容	EVs（細胞外小胞）研究・開発／健康寿命延伸事業／Dual AI（O-chiya AI & EXOCURE AI）を活用した次世代健康支援プラットフォームの構築
提唱モデル	Longevity 2.0 （EVs・GlycanAge・AI・Real World Data を統合した健康マネジメントモデル）

— ExoEarth Global 2026 - Longevity 2.0 関連リンク —

- ExoEarth Global 2026 公式サイト <https://exoearth.co.jp/2026/>
- 取材申込・お問い合わせフォーム <https://exoearth.co.jp/2026/jp/inquiry.html>

※画像素材、授賞式写真、AI アーキテクチャ図、想定 Q&A 等の補足資料をご希望の報道関係者様は、上記サイトお問い合わせフォームより「補足資料希望」とご記載ください。